

2018年7月10日

大仙、トヨタネ、次世代施設園芸分野でデンソーと 合弁会社設立について基本合意 ～日本版セミクローズドハウスの共同開発～

株式会社大仙(本社：愛知県豊橋市、社長：鈴木 健嗣)とトヨタネ株式会社(本社：愛知県豊橋市、社長：川西 裕康)は、次世代型施設園芸の普及拡大を目指し、株式会社デンソー(本社：愛知県刈谷市、社長：有馬 浩二)との3社による共同プロジェクト「Triceed-Agri(トリシードアグリ)プロジェクト」を立ち上げ、さらに、合弁会社設立に向けて協議を進めることについて基本合意しました。新会社は2018年12月に設立予定です。なお、新会社設立に向けて大仙内に準備室を設置します。

合弁会社では、3社が新たに開発したセミクローズド(半閉鎖型)ハウス「プロファーム T-キューブ」導入時の販売サポートや導入後のアフターサービスを行い、農作物の栽培を一貫してサポートする体制を構築します。今後、3社は次世代の施設園芸をリードし、日本の農業の競争力向上、儲かる農業への転換を目指します。

トヨタネは、2011年より自動車における空調システム技術や制御技術大手のデンソーと手を組み、2015年4月にハウス内環境を自動制御する「プロファームコントローラー」を発売しました。また、栽培に加え機器についてのアフターフォローを充実させる目的で「プロファームサポートセンター」を運営し、施設園芸における生産性向上に取り組んできました。こうした中で、ハウスに関しても様々な問い合わせをいただくようになりました。

大仙は、近年のIoTやAIを活用した農業ICTの目覚ましい進化により、ハウスと環境制御、栽培の関わり合いがとて強くなる中で、ハウス以外で附帯設備や環境制御装置、栽培システム等への要望が高まっており、ハウスだけの枠組みにとられない新たなニーズへの対応が求められるようになってきました。

そこで、大仙、トヨタネ、デンソー3社がオールジャパン体制で、日本のこれからの施設園芸のカタチを提案し、導入後もしっかりとサポートしていくことを目指して、新たに「Triceed-Agri(トリシードアグリ)プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトにより、3社の強みを活かした、ハウスの設計から施工、附帯設備の選定、環境制御、栽培にわたって、提案から導入、アフターメンテナンスまで丸ごとサポートが可能となります。

従来からの「自然換気」による農業用ハウスにおいては、天候に左右されやすいため、安定的な環境制御が課題となってきました。そこで、3社は、プロファームコントローラーの開発で培ったデンソーの気流解析技術を応用し、トヨタネの栽培ノウハウ、農業用ハウスメーカーの大仙によるハウス設計を組み合わせた共同開発でセミクローズド(半閉鎖型)ハウス「プロファーム T-キューブ」を開発しました。

「プロファーム T-キューブ」は、必要換気量に合わせ、換気ファンを制御する「強制換気システム」によって安定した気流を作り出します。さらに、プロファームコントローラーによる環境制御で、ハウス内環境の安定化がより一層可能となります。これにより、農作物の高収量、高品質といった生産性向上に貢献することが期待できます。「プロファーム T-キューブ」は2019年5月より、大仙・トヨタネの各販売店を通じて販売を行う予定です。

当内容は、7月11日～13日に東京ビッグサイトで開催される「施設園芸・植物工場展（GPEC）」の「トヨタネ/デンソー」ブース（小間番号：D-39）において展示予定です。

<新会社の概要>

1. 社名 : トリシードアグリ株式会社
2. 会社設立 : 2018年12月(予定)
3. 所在地 : 愛知県豊橋市内を予定
4. 資本金 : 3,500万円
5. 出資比率 : 大仙:51%、トヨタネ:24.5%、デンソー24.5%
6. 社長 : 株式会社大仙より選出予定
7. 従業員数 : 10人
8. 事業内容 : 「プロファーム」製品導入時の販売サポート、導入後のアフターサービス

<ご参考：新会社名の由来>

トリシードアグリ：Triceed-agri

三位一体の「trinity」、新しい施設園芸に挑戦し続ける「try」、進化を牽引する「proceed」、生産者と共に成功する「succeed」これらを合わせた造語です。

以上

◇本件に関するお問い合わせ先

トリシードアグリ・プロジェクト室 Tel. 0532-54-6597 Fax. 0532-57-1757

E-mail : triceed-agri@daisen.co.jp

担当：河合（大仙）、小塚（トヨタネ）

※2018年7月17日より大仙内に準備室を設置、運営開始予定です。